



ラボ番号:
患者名:
ID:
性別:
年齢:

クライアント: 30131
医師名:
Detox Co., Ltd.
2-6-6 Numabukuro Nakano-Ku
Tokyo, 165-0025 JAPAN

Microbiology Profile, stool

細菌培養の結果

良性細菌叢

4+ Bacteroides fragilis group
3+ Bifidobacterium spp.
NG Escherichia coli
2+ Lactobacillus spp.
2+ Enterococcus spp.

NG Clostridium spp.
NG = No Growth

境界性細菌叢

2+ Alpha hemolytic strep
3+ Gamma hemolytic strep
1+ Proteus vulgaris group
1+ Raoultella ornithinolytica

悪性細菌叢

3+ Citrobacter braakii
3+ Citrobacter freundii
3+ Enterobacter cloacae
3+ Klebsiella pneumoniae ssp pneumoniae

細菌学的な情報

予期/有用細菌は、健康でバランスの取れた胃腸管においては、全微生物の中で大部分を占めています。これらの有用細菌は、ビタミン、発酵繊維、消化タンパク質、炭水化物の生成、抗癌物質や抗炎症因子の増殖などを含む、胃腸管における健康保全効果を多く含んでいます。

クロストリジウムは健康なで一般的に良くみられる微生物です。クロストリジウム類は、その他の予期/有用微生物とのバランスの兼ね合いを考えなければなりません。クロストリジウムが欠乏している、あるいはその他の予期/有用微生物と比べて大量に増殖している場合、細菌のバランスが不均衡になっていることを表しています。クロストリジウム・デフィシルの関連疾患が疑われる場合、クロストリジウム総合培養、または毒素クロストリジウム・デフィシルのDNAテストの実施をお勧めします。

共生(不均衡)細菌は通常、宿主の胃腸管に対して病原性細菌でも、有用細菌でもありません。有用細菌のレベルが少ない場合や、共生細菌レベルが増殖しすぎた場合に、不均衡が起こります。共生細菌の中には、増殖レベルが高くなると、腸内毒素症を引き起こす原因となるとという報告もあります。

腸内毒素細菌は既知の病原細菌から成り、胃腸管の疾患を引き起こす可能性があると言われてます。汚染水や汚染食物の摂取、有用細菌に対して毒性のある化学物質への暴露、抗生物質、経口避妊薬やその他の薬物の使用、食物繊維摂取の不足やストレスレベルが高いことなど、数多くの原因により、腸内毒素細菌が発生します。

イーストの培養

Normal flora (通常真菌叢)

No yeast isolatede

Dysbiotic flora (悪性真菌叢)

顕微鏡検査によるイースト

判定結果: **Rare** 理想値: **None - Rare**

便中イーストの顕微鏡検査は、イーストの増殖を確認するのに役に立つ検査です。**Rare** 判定は、正常ですが、**few**、**moderate**、或は **many** は異常です。

イースト情報

Yeast (イースト)は通常は少量皮膚、口腔、腸、そして皮膚粘膜接合部に見いだされます。イーストの過成長によって理論的にはすべての組織臓器に感染可能です。そして感染すると様々な臨床兆候が見られます。真菌性下痢は、広範囲の抗生物質使用或は患者の免疫状態の広範囲な変性と関係しておきます。そしてその症状には腹痛、筋けいれん、そして刺激過敏が含まれます。イーストの存在を調べるとき、培養と顕微鏡検査での結果とは不一致があるかもしれません。イーストは便中に一様に分散している訳では無いからです。このことによって顕微鏡では検出できなかったりごく微量であったりしたのが培養では十分な量のイーストが検出されることがあります。逆に、顕微鏡検査では相当量のイーストが存在するにもかかわらず、全く培養されないこともあります。イーストは消化管を通過する際必ずしも生存して通過する訳ではないので検出されないこともあります。

コメント:

検体採取日:
検体受託日:
検査完了日: